



「見たり、聞いたり、探ったり」No.259

通算 No.410

青 木 行 雄

「東京パラリンピック」について (2021年(令和3)8月24日の開会式) (2021年(令和3)9月5日 閉会式)

新型コロナウイルスの影響で開幕が1年延期された第16回パラリンピック東京大会は8月24日、東京都新宿区の国立競技場で開会式が行われ、開幕した。大会には161か国・地域と難民選手団を合わせ、史上最多4,403人の選手が参加。8月25日から、9月5日の閉会式までの12日間、22競技、539種目(東京五輪は33競技339種目)で熱戦を繰り広げられた。



東京パラリンピック、国立競技場で開会式に出席した、天皇陛下と菅首相

1964年(昭和39)大会に続き、同1都市2度目の夏季パラリンピックを開催するのは東京が初めてだという。国

内の感染状況が五輪開幕時以上に拡大し厳しくなる中、互いを尊重し、認め合う「共生社会」実現の契機にできるかが問われた。

大会は東京、千葉、埼玉、静岡の4都県全21会場が原則無観客に。一方で、児童・生徒に観戦機会を提供する「学校連携観戦プログラム」は実施する予定だったが、一部の学校のみとなった。

大会組織委員会は東京五輪以上に徹底した感染対策を講じ、安全・安心な大会運営を目指し運営を実行した。

この「パラリンピック」について

正式にはどんな大会なのか、いつ頃から始まり、オリンピックとの関係、どんな経過をたどり現在に至ったのか、など調べて見ることにした。

まず、東京パラリンピック開幕の朝(2021年8月24日)、朝日新聞の「天声人語」に目をうばわれる。その記事をそのまま記して見たい。

『東京パラリンピックがきょう開幕する。バドミントンの医療統括責任者を務める中村太郎医師(60)に先週、話を聞いた。父の裕さんが「日本パラリンピックの父」と呼ばれる人物と知ったからだ。

◆1927年(昭和2)、大分県生まれ。国立別府病院の整形外科医だった。1960年(昭和35)英国の病院を訪れ、衝撃を受ける。日本でなら再起不能とみなされそうな患者が半年ほどで退院し、社会復帰を果た

していたからだ。

◆秘訣はスポーツにあった。車いすで卓球やバスケットボールに打ち込み、リハビリ効果を上げていた。〈失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ〉。指導を受けたグットマン博士の理念を体現しようと、帰国直後から奔走。障害者体育大会を開き、1964年（昭和39）の東京パラリンピックでは団長を務めた。

◆別府に翌年開いたのが「太陽の家」。障害者が手に職をつけ、自立する道をつくった。入所者は希望を得て、次々と巣立った。「保護より機会を」。そう訴え続けた裕さんは1984年（昭和59）57歳の若さでこの世を去った。

◆自伝、「太陽の仲間たちよ」を読み、足跡をたどった。「障害者を見せ物にするな」と批判されながらも突き進んだ裕さんは、仲間から「中村台風」と呼ばれた。古い障害者観を打ち破るため、時代が人並み外れた行動力を求めたのだろう。

◆別府を主会場に開かれるパラリンピックをいつか見てみたい。満場の開会式では、肩を組むグットマン博士と裕さんの笑顔が大きく映し出されるに違いない。そんな夢想到にしばし耽った。』こんな感激の記事がのった。

私は大分県出身であるが、この紙面に感動して、「中村裕（医師）」氏について、調べた。

「中村裕（1927年（昭和2）3月30日生1984年（昭和59）7月23日没）は日本の医学者、整形外科医。身体障害者のスポーツ振興をはかった。日本パラリンピックの父と呼ばれる。

大分県別府市出身。九州大学医学部卒業

国立別府病院整形外科医長歴任

1966年（昭和41） 大分中村病院設立

1979年（昭和54）～1980年（昭和55） 日本パラプレジア医学会会長歴任

1965年（昭和40）に障害者の自立のための施設「太陽の家」を創設。また、障害者スポーツ振興に情熱を傾け、1964年（昭和39）の東京パラリンピックで選手団長を務め、第1回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会（フェスピック）開催に尽力。さらに「大分国際車イス馬拉ソン」を提唱し、その実現に尽力した。

1975年（昭和50） 吉川英治文化賞を受賞

前記のように1960年（昭和35）中村裕博士はリハビリテーションの研究を目的にイギリスのストーク・マンデビル病院国立脊髄損傷者センターに留学。グットマン博士の指導の下、スポーツを医療の中に取り入れて、残存機能の回復と強化を訓練し治療するのを目の当たりにし強い衝撃を受ける。多くの脊髄損傷患者がこれらの治療・訓練を受け、6か月という短期間の内に社会復帰していた。中村博士はこの手法を日本で実践する決意をする。

当時の日本では身障者は「ベッドで寝て過ごすことが一番」といわれていた時代であった。

帰国後、すぐに障害者スポーツの普及を目的とし、第1回大分県身体障害者体育大会を開催、「障害者を見せ物にするな」「あなた、それでも医者ですか」など多くの批判を受けた。

1964年(昭和39)、東京パラリンピック開催に奔走し、日本人選手団団長を務めた。日本の参加者は施設や病院暮らしの「患者」である、それに対して西欧諸国の「アスリート」では試合に勝てるはずもなかった。それ以上にショックだったのは、大会期間中、西欧諸国の参加者は、自分でタクシーを呼び銀座へショッピングに出かけるなど一人の自立した人間として生き生きとした姿を見たからだ。



車イスのレース情況、国立競技場

1975年(昭和50)には障害者自身へのスポーツのプロモーションと障害者の能力を一般の方に見てもらうことを目的とし、第1回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会(フェスピック)を開催し、現在のアジアパラへと継承し、継続されている。

それから、1981年(昭和56)、第1回大分国際車イスマラソン大会を成功に導いたのである。

大分～別府間。猿集団で名高い高崎山を背に行なわれる世界的な車イスマラソン大会がなぜ大分なのかと思っていたのだが、これで良くわかった。

そして、上記のように第1回大会には、14の国と地域から171名の選手が出場された。それから毎年開催され、今年第40回記念として2021年(令和3)11月21日(日)「大分国際車イスマラソン大会」がAM10:00に大分県庁前から、スタートする。

比較的、認識不足だった私は「中村裕」博士の事を知り、パラリンピックへの関心を深くして、今回の競技をずーっと見させていただいた。

パラリンピック大会(夏季大会)の第1回大会は1960年(昭和35)イタリアのローマで開催した時からカウントが始まったとされている。その時、開催時の名称は「ストック・マンデビル競技大会」と称し、1960年(昭和35)中村裕博士が留学し、グットマン博士の指導を受けた年に、グットマン博士を会長とした国際ストック・マンデビル大会委員会が組織され、この年のオリンピックが開催されたローマで、同時に第9回国際ストック・マンデビル競技大会が開催されたのである。

20世紀初頭から、散発的な障害者スポーツの大会は記録されているが、当大会の起源とされているのは、1948年(昭和23)7月28日、イギリスのロンドンオリンピック開会式と同日に、イギリスのストック・マンデビル病院で行われたストック・マンデビル競技大会とされる。これは、戦争で負傷した兵士たちのリハビリテーションとして「手術よりスポーツを」の理念で始められたものという。

ストック・マンデビル病院には、第二次世界大戦で脊髄を損傷した軍人のリハビリのための部門があり、ドイツから亡命したユダヤ系医師ルートヴィヒ・グットマンの提唱により、1948年(昭和23)のこの日、車イス入院男子患者と女子によるアーチェリー競技会が行われたとされる。この競技会が毎年続けられて、1952年(昭和27)には国際大会となり、第1回国際ストック・マンデビル競技大会となった。

そして第2回大会は、1964年(昭和39)にこの年の夏季オリンピックが開催された「東京」で、第13回国

際ストック・マンデビル競技大会が行われた。大会は2部構成で、第1部が国際ストック・マンデビル競技大会、第2部は全ての身体障害を対象にした日本人選手だけの国内大会として行われた。

なお当大会をオリンピック開催都市と同一都市で行う方式は、東京大会後は定着せずいったん中断することとなり、1972年(昭和47)の西ドイツのハイデルベルク大会で復活したという。

1988年(昭和63)韓国のソウル大会より、正式名称が「パラリンピック」となった。また、国際オリンピック委員会(以下IOC)が当大会に直接関わる初めての大会となる。

1989年(昭和64)には国際パラリンピック委員会(IPC)が設立され、継続した大会運営が行なわれるようになった。現在IPC本部はドイツのボンに置かれている。

2000年(平成12)、オーストラリアのシドニーオリンピック時にIOCとIPCとの間で正式に協定が結ばれ、オリンピックに続いて開催されることと、IPCからIOC委員が選出することが両者間で約束され、オリンピック開催都市での開催が正式に義務化された。

そして2001年(平成13)にはIPCとIOCは、スイスのローザンヌで合意文書に調印し、オリンピックとの連携を強化することとなったのである。

※オリンピックとパラリンピックのかかわりは別紙の開催地一覧(夏季大会)を見て下さい。

パラリンピックとは

障害のあるトップアスリートが出場できる世界最高峰の国際競技大会である。夏季大会と冬季大会があり、国際パラリンピック委員会(IPC)は大会を通じ共生社会を促進することを目指している。それぞれオリンピックの開催年に、原則としてオリンピックと同じ都市・同じ会場で行われることになった。〔1972年(昭和47)西ドイツの大会より〕

パラリンピックの価値

- | | |
|-------------|---|
| 1 勇気 | マイナスの感情に向き合い、乗り越えようと思う精神力 |
| 2 強い意志 | 困難があっても、諦めず、限界を突破しようとする力 |
| 3 インスピレーション | 人の心を揺さぶり、駆り立てる力 |
| 4 公平 | 多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力 |

IPCのシンボルマーク



「スリーアギトス」と呼ばれている。「アギト」とは、ラテン語で「私は動く」という意味で、困難なことがあってもあきらめずに、限界に挑戦し続けるパラリンピアンを表現している。赤・青・緑の三色は、世界の国旗で最も多く使用されている色ということで選ばれたという。



第16回パラリンピック開会式で、開会の挨拶をする、橋本会長とIPCのパーソンズ会長

以上が「パラリンピック」についての概要だが、念の為に「オリンピック」について記して見た。スタートも意味・内容・目的も違ってのスタートだったが、スポーツを通して人間形成は共通する。

※オリンピックのシンボルである五輪マークはオリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタン男爵が考案した。左から青・黄・黒・緑・赤の五色である。

1 世界の五大大陸を意味する

五大大陸・ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニア。

2 5つの自然現象を意味する

赤色は火を意味し、青色は水を意味し、緑色は木を意味し、黒色は土を意味し、黄色は砂を意味しているという。

3 スポーツの5大鉄則を意味する

情熱、水分、体力、技術、栄養を意味する。

このような能書が書かれている。

※今回の東京オリンピックは第32回であった。第1回目1964年(昭和39)のオリンピックは第18回目でした。

開催地一覧

夏季大会

第1回大会から第10回大会までの参加国数及び参加人数は、厚生労働省の発表による数値^[7]（JPSAの発表数値とは異なる）、第11回大会以降はJPSAの発表による数値^[8]。

回	開催年	開催都市	開催国	参加国数	参加人数	開催時名称
第1回	1960年	ローマ	 イタリア	23カ国	400人	第9回ストック・マンデビル競技大会
第2回	1964年	東京	 日本	22カ国	567人	第13回ストック・マンデビル競技大会
第3回	1968年	テルアビブ	 イスラエル	29カ国	1,047人	第17回ストック・マンデビル競技大会
第4回	1972年	ハイデルベルク	 西ドイツ	41カ国	1,346人	第21回ストック・マンデビル競技大会
第5回	1976年	トロント	 カナダ	40カ国	1,000人	第25回ストック・マンデビル競技大会
第6回	1980年	アーネム	 オランダ	42カ国	2,556人	身体障害者オリンピックアーネム大会
第7回	1984年	ニューヨーク	 アメリカ	45カ国	1,800人	第7回世界車椅子競技大会
		アイレスペリー	 イギリス	40カ国	600人	
第8回	1988年	ソウル	 韓国	61カ国	4,220人	パラリンピック
第9回	1992年	バルセロナ	 スペイン	83カ国	4,200人	
第10回	1996年	アトランタ	 アメリカ	103カ国	3,259人	
第11回	2000年	シドニー	 オーストラリア	122カ国	3,881人	
第12回	2004年	アテネ	 ギリシャ	135カ国	3,808人	
第13回	2008年	北京	 中国	146カ国	3,951人	
第14回	2012年	ロンドン	 イギリス	164カ国	4,310人	
第15回	2016年	リオデジャネイロ	 ブラジル	159カ国	4,342人	
第16回	2020年(延期)	東京	 日本			
第17回	2024年	パリ	 フランス			
第18回	2028年	ロサンゼルス	 アメリカ			
第19回	2032年	ブリスベン	 オーストラリア			

※ウィキペディアより記載した。

1964年（昭和39）の東京開催時は「パラリンピック」とは呼ばず「第13回ストック・マンデビル競技大会」という名称であった。

東京パラリンピック閉会式

東京パラリンピックは2021年9月5日、東京国立競技場で閉会式も行われた。57年ぶりに開催され、世界がコロナ禍という未曾有の危機に直面する中、舞台を東京中心に開催され、無事に閉会式にこぎつけた。式には選手団大会関係者約3千人が参加し、大会名誉総裁を務める天皇陛下の名代として秋篠宮さまが出席された。

かえり見ると、2013年（平成25）9月、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会（IOC）総会で、2020年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決まった時、ほとんどの日本人が感動を夢見たのではなかろうか。あの時、安倍晋三首相（当時）が「震災から復興を成し遂げた姿を世界中に発信する」と宣言した。私は開催まで東京に大震災がこなければと祈っていたが、なんとこの新型コロナウイルスが世界を震撼させた。そしてこの新型コロナ禍で1年延期となり、開催を中止せよと反対者も少なからずおり危ぶまれた時期もあった。様々な困難にも直面しながら、閉幕するこ



東京パラリンピック閉会式に出席した、ドレス姿の小池百合子知事



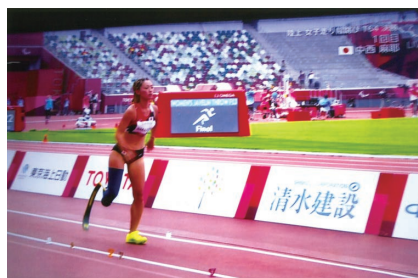
東京パラリンピック閉会式でパラリンピックの旗次国への授与、東京からパリへ



パラリンピック閉会式に出席の左から、秋篠宮さま、菅義偉首相、小池知事、橋本会長



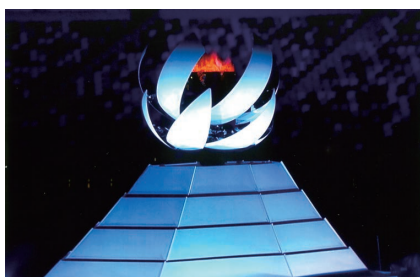
閉会式に参加の日本アスリート達



陸上女子走り幅跳びに参加の中西麻耶さん。残念でしたが入賞出来ず。



国立競技場で閉会式の開幕時の花火



閉会式にまもなく消火の聖火台



パラリンピックの旗をIPCパーソンズ会長から受け継ごうとするパリ市長（アンヌ・イダルゴ氏）



次期、2024年開催地のフランスパリ。エッフェル塔になびくパラ旗

とが出来た。

大会では様々な障害を抱えた世界中の選手たちが自らの可能性に挑み、力と技を競った。その姿が多くの感動をもたらしてくれた。

競泳女子の背泳ぎで銀メダル2個を獲得した14歳の山田美幸選手は両方の腕がなく、両脚の長さが違う、キック力を鍛えるだけでなく、バランスを保つ練習を重ねて、夏冬を通じて日本のパラ史上最年少のメダリストとなった。競技後に見せた笑顔から、逆境に立ち向かう勇気と元気をもらった人は多かったと思う。

メダルの有無にかかわらず、各国の選手達が努力と工夫で障害を乗り越え、コロナ禍の中で力を発揮した。

東京大会に向けて国は障害者スポーツ団体への助成金を増やしてきたと言う。また雇用などを通じて、選手を支援する企業も増えてきたようだ。

多くのパラアスリートにとってスポーツは苦難を乗り越える原動力になっている。継続的に支援する

仕組みを検討してほしいと思う。

国際パラリンピック委員会は、今大会に合わせ、世界の人口の15%にあたる約12億人の障害者が差別されことなく共生できる社会の実現を呼びかけた。

選手の多くは様々な人たちのサポートを受けながら競技に臨み、試合後は、支援への感謝を口にしていった。多様性を認め、支え合う意識を高めることが重要だと思う。

大会を通じて、大きな集団感染は起こらず開催国として責任を果たしたのではないかな。ひとまず、閉幕して日本人全員がホッとしたのではないかなと思う。

最後に「橋本組織委員長」閉会式のあいさつ要旨を記して、長くなったが東京パラリンピックの記載をおえたい。

『東京パラリンピックは全ての会場が笑顔で溢れていました。メダリストの笑顔に添えられたブーケは、東日本大震災の被災地で育てられた花から作られました。輝きを復興の道を照らす光として、さらに前へと進めてまいります。8年前、私たちが世界に約束したおもてなしの心は、全てのアスリートに感じていただけたのではないのでしょうか。厳しい状況の中にあっても、互いに尊重し、敬い、心をつににした皆さんだからこそ、この大会を成し遂げることができました。パラリンピアンの方々の圧倒的パフォーマンスに、心が震えました。互いの違いを認め支えあい、いかなる差別も障壁もない、多様性と調和が実現した未来を必ず作る。この決意が社会の変革の契機となることを誓い、私たちはさらに歩みを進めます。オリ・パラがあって、出来て良かった。私はその価値を信じます。』

※東京パラリンピック

2021年8月25日～9月5日までのメダル獲得数

メダル獲得の国・地域は86。参加161。

参考資料：日経新聞、朝日新聞、読売新聞、NHKテレビ

メダル最終獲得数

金	銀	銅	メダル獲得数
96	60	51	207
41	38	45	124
37	36	31	104
36	33	49	118
25	17	17	59
24	47	27	98
22	20	30	72
21	29	30	80
14	29	26	69
14	1	4	19
13	15	23	51
13	12	18	43
12	11	1	24
11	15	28	54
9	15	12	36
8	5	6	19
7	6	12	25
7	5	4	16
7	4	3	14
7	2	13	22
6	3	3	12
6	2	1	9
5	10	6	21
5	8	6	19
5	5	8	18
5	2	4	11
5	1	1	7
4	5	2	11
4	4	3	11
4	4	4	12
4	4	3	11
4	2	1	7
4	1	2	7
4	1	1	6
4	0	1	5
3	3	7	13
3	2	2	7
3	2	0	5
3	1	1	5
2	10	12	24
2	4	9	15
2	3	4	9
2	3	3	8
2	3	1	6
2	3	1	6

ノルウェー	2	0	2
シンガポール	2	0	0
オーストリア	1	5	3
スウェーデン	1	1	2
ギリシャ	1	3	7
フィンランド	1	3	1
カザフスタン	1	3	1
アラブ首長国連邦	1	1	1
コスタリカ	1	1	0
エクアドル	1	0	2
キプロス	1	0	1
スリランカ	1	0	1
エチオピア	1	0	0
モンゴル	1	0	0
パキスタン	1	0	0
ペルー	1	0	0
アルゼンチン	0	5	4
エジプト	0	5	2
クロアチア	0	3	4
ラトビア	0	3	2
ジョージア	0	3	0
香港	0	2	3
ブルガリア	0	2	0
イラク	0	1	2
クウェート	0	1	1
ナミビア	0	1	1
ルーマニア	0	1	1
スロベニア	0	1	1
ベトナム	0	1	0
リトアニア	0	0	3
ポルトガル	0	0	2
ロシア・パラリンピック委員会	0	0	1
エルサルバドル	0	0	1
ケニア	0	0	1
サウジアラビア	0	0	1
モンテネグロ	0	0	1
オマーン	0	0	1
カタール	0	0	1
台湾	0	0	1
ウガンダ	0	0	1

2021年9月20日記